





Ⅲ 区の「これから」を考える

前章では「都市のスポンジ化」を中心としたまち全体の課題と、土地利用・交通等の各分野において区が抱える資源と課題を分析しました。

本章では、まずこれからの社会全体のトレンドや、人々の価値観の変化を概説し、それと前章で明らかにした区の資源・課題を掛け合わせて、これから区がめざしていくまちの姿を示します。

- これからの社会トレンドと価値観の変化

ライフスタイルの変化

ICTの進歩

- めざす東住吉区での暮らし方

- 都市構造のイメージ

居住密度の考え方

空間整備の考え方

- まちづくりの実施体制

- ビジョンの運用方法

上：地域盆踊りの風景

下：農空間を活用したまちのイメージ

これからの社会トレンドと価値観の変化

ライフスタイルの変化

- ・2020年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大は、これまで徐々に進んできていたテレワークやリモートコミュニケーションの普及を加速し、人々のライフスタイルを大きく変えています。
- ・内閣府がCOVID-19感染拡大を受けて令和2年6月に行った調査では、テレワークの実施率は約35%に上っており、これを契機としてリモートワークが一つの主要な働き方として定着することが予想されます。

質問 今回の感染症の影響下において、経験した働き方を全て回答してください。

回答者割合	テレワーク (ほぼ100%)	テレワーク中心 (50%以上)	定期的にテレワーク (出勤中心：50%以上)	基本的に出勤 (不定期にテレワーク)	週4日、週3日 などの勤務日制 限	時差出勤やフレックスタイム による勤務	特別休暇取得などによる勤務時間削減	その他	いずれも実施していない
全体	10.5%	11.0%	6.9%	6.1%	11.2%	9.3%	12.6%	3.5%	41.0%

感染症影響下におけるテレワーク実施率*

- ・国土交通省「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」（令和2年8月31日発表）によると、新型コロナ危機を踏まえ、今後の都市のあり方は下記のように変わっていくことが推測されます。

【都市（オフィス等の機能や生活圏）の今後のあり方】

- ▷テレワークの進展により、どこでも働ける環境が整い、働く場と居住の場が融合。働くにも住むにも快適な環境、ゆとりあるスペースへのニーズが高まる。

【オープンスペースの今後のあり方】

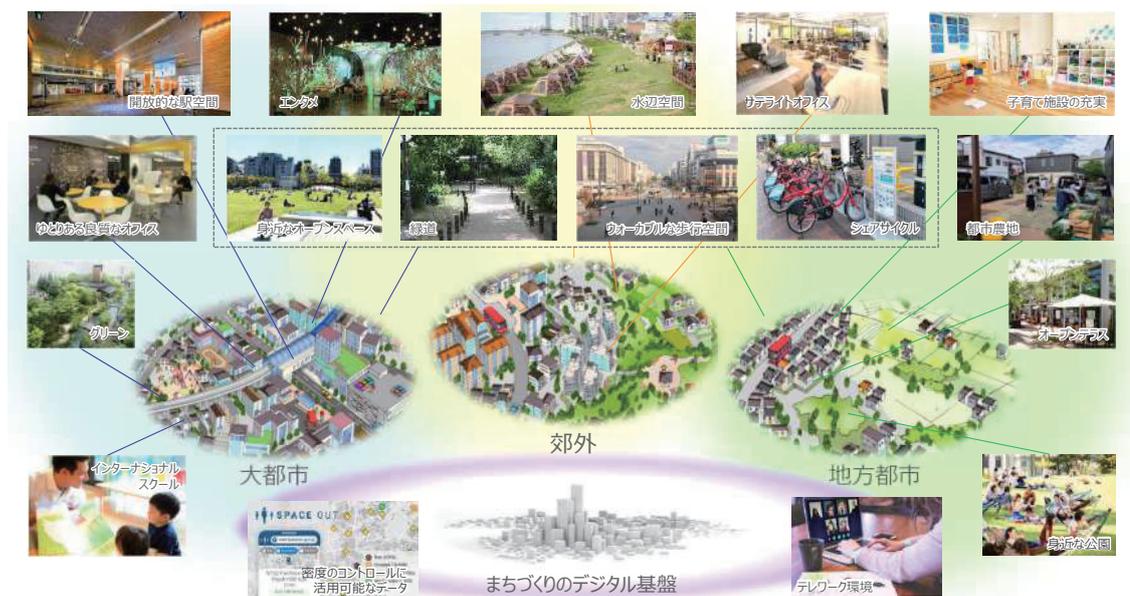
- ▷自宅で過ごす時間が増え、身近な自然資源として、運動不足の解消・ストレス緩和の効果が得られる場として、グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性が再認識。

【都市交通（ネットワーク）の今後のあり方】

- ▷近距離の移動については、公共交通から自転車に転換している可能性。
- ▷歩行者にとっての過密の回避、居心地の良い環境へのニーズの高まりのため、都市のウォークアブル空間の重要性が高まっていくと考えられる。

【データ・新技術等を活用したまちづくりの今後のあり方】

- ▷フィジカル空間が果たしてきた都市機能の一部はデジタル空間へ移行すると考えられる。



新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性*

ICTの進歩

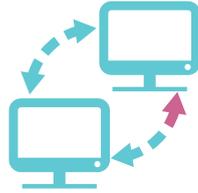
- ・ICTは目覚ましい進化を遂げており、今後更に発展していくことが推測されます。
- ・下記のようなICTの進歩が、まちづくりに影響を及ぼすと考えられ、これらを積極的に活かしてまちづくりを進めて行くことが必要と考えられます。

5G インターネット基盤



今後の更なる情報通信の利用拡大に向けて、情報通信基盤の整備促進

行政サービス効率化



区役所等に行かなくても自由な時間・場所で行政上の申請・手続きを可能に

オープンデータ



まちの様々な情報に手軽にアクセスできるようにし、利便化を促進

MaaS



各種交通モードの情報や料金体系を一元化し、交通サービスの利便性向上

スマートウェルネス



健康状態の計測や摂取・消費カロリーの計算など、ICTを活用した健康管理

遠隔診療



在宅診療による診療の利便化・効率化や、遠隔地の専門医の診断を可能に

地域通貨



地域で貯めて使える電子通貨により地域イベントや商店街との連携可能性を向上

スペースマッチングプラットフォーム



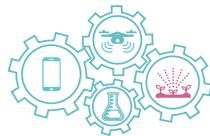
イベント、遊び場、会議室などの各種スペースの需要・供給をマッチング

センシング



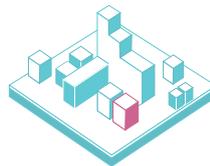
人・車の交通量・速度の計測によるデータ収集とプランニングへの反映

スマート農業



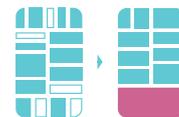
IoTによる作物の維持管理、ドローン集荷による省力化や、農業ロボによる職人技の伝達

3D都市モデル



開発による地域の町並み景観の変化や風環境への影響などをモデリングし評価

ランドバンク



空地空家の利用促進や狭隘道路拡幅についてICTで最適な方向性を判定

まちづくりに関連する ICT